

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク人工苗床実証試験（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 牧野清人・中村勇次

1. 目的

モズク養殖では、地張りを行なうための苗床での芽出しが養殖の成否に大きく関わっている。また、苗床の低質はサンゴ礫が最も良いと言われているが、サンゴ礫がモズク養殖網に絡んだり、地張りしている下の網数枚が擦れて芽切れを起こす。これを解消するために、久米島では地張りの際、網の下に目合いの細かい敷き網を敷くことで芽出し率の向上や網のスレを防ぐ手法が取られている。

また、八重山地区では、苗床への地張りの後に砂地での中間育成を経て本張りを行なっていることから、同手法を用いて養殖作業の省力化を図る目的で試験を実施した。

2. 材料及び方法

八重山地区では、砂地、藻場、ウール（サンゴ礫）漁場の3種類の苗床で試験（砂地：譜久村寛松氏、藻場・ウール：名嘉正直氏）を行った。

砂地漁場は、竹富島西側本張り漁場で12月1日に沖出した網100枚で試験を開始した。敷き網なし1列（2セット10枚重ね）10枚、敷き網あり9列（2セット10枚重ね）90枚を設置した。

藻場漁場は、竹富島東側漁場で12月29日に沖出した網90で試験を開始した。敷網なし7列（2セット10枚重ね）70枚、敷き網あり2列（2セット10枚重ね）20枚を設置した。

ウール漁場は、竹富島西側漁場で12月29日に沖出した網30枚で試験を開始した。敷き網なし1列（2セット10枚重ね）10枚、敷き網あり2列（2セット10枚重ね）20枚

を設置した。

3. 結果及び考察

砂地漁場は、12月22日に漁場を確認したところ敷き網ありなし共に芽出しが確認された。その後、3月15日に25枚だけ本張りへ移行したが、モズクに芽切れが起こっており状態はよくなかった。6月3日に現場調査を行ったところ、敷き網ありなしともに芽出した藻体の伸張がみられず、収穫は不可能と判断されたため試験終了とした。

藻場漁場は、3月4日に漁場を確認したところ敷き網あり、なし共に3～5cm程度の芽出しが確認された。その時点では、敷き網の有無による大きな違いは見られなかった。その後本張りへ移行し、4月30日に収穫したが、敷き網区、対照区（敷き網なし）ともに1網あたり約60kgと収量に差はみられなかった。

ウール（サンゴ礫）漁場は、3月4日に漁場を確認したところ敷き網あり、なし共に0.5～1cm程度の芽出しが確認された。その後、本張りへ移行された。6月3日に漁場調査を行ったところ、敷き網区、対照区（敷き網なし）共に20cmほどの藻体の伸張がみられたが、網全体ではなく部分的なもので、収穫には至らなかった。

4. 今後の課題

砂地漁場は、平成19年漁期から敷き網の成果が出ている漁業者に協力をお願いしたが、今回は成果を得ることができなかった。藻場漁場では、収穫できたが敷き網区と対照区の収量に差は見られなかった。ウール（サンゴ礫）漁場では、芽出しまでは確認されたがその後の伸張が思わしくなかったため収穫まで至らなかった。

八重山においては、苗床から本張り漁場までの間に中間育苗が行われており、この中間育苗の漁場で敷き網を使用することによって芽出しを行い、漁場移動の回数を減らすことが可能かどうかを検証すること、また、養殖網を移動させる際にサンゴ礫等が絡まり作業性が悪くなることから、敷き網を使用することにより礫の絡まりを防ぎ作業効率を向上させるとの狙いがあった。

た。前者については、砂地漁場で平成19年と20年に十分な成果が得られたことから今後も波及していくと思われる。後者については、網への礫が絡まるウール漁場で効果が期待されるが、調査を行った漁場が悪いのか成果は上がっていない。今後、別の漁場で引き続き試験を行い効果を検証する必要がある。

表1 人工苗床実証試験結果

地 先	低 質	試験区	収穫枚数	収穫量	網1枚当たりの収穫量
小浜島東	藻場	敷き網有り	20枚	1,200kg	60kg
小浜島東	藻場	敷き網なし	70枚	4,200kg	60kg



① 2月22日砂地漁場 敷き網あり



② 2月22日砂地漁場 芽出し状況



③ 3月4日砂地漁場



④ 3月4日砂地漁場



⑤ 6月3日砂地漁場



⑥ 6月3日砂地漁場



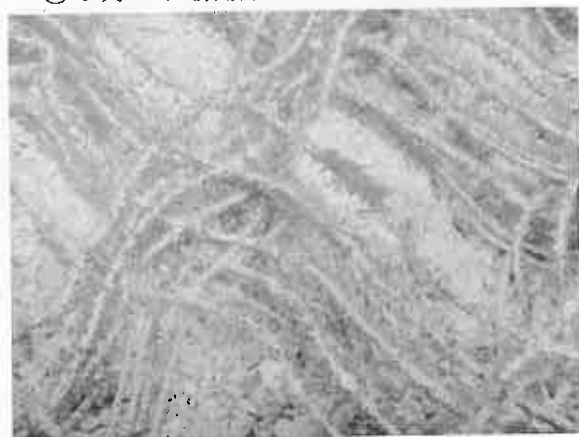
⑦ 3月4日藻場漁場 敷き網あり



⑧ 3月4日藻場漁場 敷き網なし



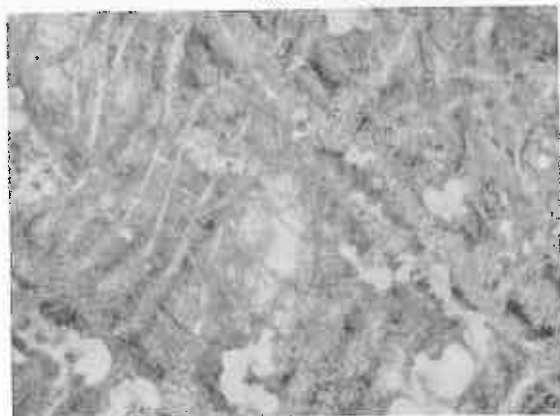
⑨ 3月4日ウール漁場 敷き網あり



⑩ 3月4日ウール漁場 芽出し状況



⑪ 6月3日ウール漁場



⑫ 6月3日ウール漁場 (拡大)